附記

のの如く海軍航空部隊は同島敵陣地を連續爆撃中なり連絡経え狀況詳かならざるも『ダラワ』島に於ては尚敵戦績行中のも四、『ダラワ』島及び『マキン』島の戦況については同島守備部隊この

型空母眞二つ

雷撃必中、續々艦影沒す

諸島西方海面に於ける航空戦を 第一次『ギル

(語) 本航空戦を第三次『ギルバート』諸島沖航空戦ご呼稱

巡艦三隻を血祭りに

我方の損害 未歸還一機なりに於て敵機動部隊を攻擊し、航空母艦二隻を墜沈 (內一隻轟沈)せり二、帝國海軍航空部隊は二十六日夕刻『ギルバート | 諸島西方海面

艦一隻を攻撃し、これを大破(沈沒概ね確實)せしめたり

キン』島西方海面に於て敵航空母

となって今後ます(着力な學性

島諸ンモロソ

於て更に來襲し來れる敵機動部隊を攻擊し左の戰果を得たり

帝國海軍航空部隊は二十七日夕刻『ギルバー

ト』諸島西方海面

擊沈 航空母艦二隻(內大型航空母艦一隻轟沈)巡洋艦二隻

巡艦行名人大願四(二)

(語) 本航空戦を第二次『ギルバート』諸島沖航空戦 ご呼称す

大東亞解放記念日

會長に八田運通相一

體當りの

機能されたが各世時能量は全部無

新かららて開発さるでも難かがあった。 東アジャの表情の歴史の経済を向ける。東京「南アジャの表情の歴史を可能である時代を 大き語が歴史と可能の歴史と考える。東京「南アジャ文化圏史」 時間は 『徳

には三個信 可を得たの

・ フ高は廿三日夜の一度日の愛観で ・ 一回爆闘で火災のため近畿、毎日 ・ 一回爆闘で火災のため近畿、毎日

受けたが大して破損せず職員は一ルリン日本大使職は多少の機器を

を行「関連の数」を加へた近来の蔡頼版。 で歌歌の片類・場合・照常・産業といい で歌歌の片類・場合・照常・産業といい でなった。 で歌歌の片類・場合・照常・産業といい が、一般の一度が、一般の一選 計画

してゐるが未だ運絡がつかない

ンとの直接電話運輸に自方手段を駆に親し記者は廿三日以來ベルリ

蒙

古

Ø

歐洲遠征 贈一·四〇

階丘がそれ

ダーマー・ブラッツ、ドイツチャ の様子だが日本人配る螺はボツ の様子だが日本人配る螺はボツ の様子だが日本人配る螺はボツ

島諸トーバルギ

艦も呼應、戦果擴大

をもつて、行はれてゐることを明

島ンアイルア。島キラマ

よれば、サハ日夜ドイツ空軍は英 とれば、サハ日夜ドイツ空軍は英 はない。サル日夜ドイツ空軍は英

最適工業經營論

獨空軍、英本

(有本教店への近次駅ひのす。) 二省 第刊

次 州 倫 伊東 敬書 大道監督を上に関係関心を除めてよる。 著術の道事・経済・社會・文化・服合に続 著術の道事・経済・社會・文化・服合に続

國本土東南部を顕微数ケ所に爆弾

を設下し建物、住民に損傷を興へ

一方ロンドン市にも空襲警報

工"

爆ライン

にある米質傾地を機関、損害および死陽を生じた間は八日蘇

戰 綜 朱 合

沈、既是報题一座、巡路

選出千八百名、繋陽者二百十名に 米、キューパ糖密 買付交渉再開

黄松

り被黙請大を極めたが、その死亡 コのアナトリヤ地方に大地震が起 **『イスダンプール 廿九日同盟』ア**

ンカラ來他によれば廿六日夜トル

トルコに大地震

人-リク甲薬 **/ 三 71** 所究研學化理元三 ーク來覧―繁聚得感筋の傷へると アニノスアイレス難】ニューョ

るごととなつた。 の関係が変化性の一式 をは終ったので、今回の交渉に 関に終ったので、今回の交渉に 関に終ったので、今回の交渉に 対いてアメリカは、ガロン階り 九仙牛の費入優格を唱へるもの とめられる 機器在荷貨付企器は近く開始され うによればアメリカのキューパ

わが方の損害

大觀堂出版株式會社

府の都合により同日午後に開催す

東京電話】卅日の定例組織は欧 定例閣議午後に開催

梁川星般計畫

志士詩歌集 智念書

米の戦意感を熾烈化

1の個目本を選出 地上明 単二 第 生之後 日本の 地上の 地上の 関 エエモー 元 日本の 地上の 関 エエモー 元 日本の と 明 日本で 一 元 明 生之後 家畜の歴史 は、大人子一五萬月大帝日本と思・東省の歴史 は、大人子一五萬月大帝日曜年と思・東省の歴史を設さ別が万元の東京で表示の歴史をは、日本の世界とは、日本の世界には、日本の世界とは、日本の世界には、日本の世界には、日本の世界とは、日本の世界には、日本の世界と称が、日本の世界とは、日本の世界には

【向民國少】

、兩島の我軍勇戰

「フェノスアイレス廿八日同盟」

をかを検討する必要がある。する

側ひ作成として耐灰わば歌略変

が大戰果稱證

□ ◇韓祖朝氏 (勝鬼選長) 剛維方面 原泰ため □ 日平前九時五十分京 成勝泰ため □ 日平前九時五十分京 成勝泰と □ 日午第七日子 ◇蘇州寺町丘 (京原等本世長) 抱 ○ 「日本等) 開州 ○ 「日本等) 開州 て織成する方針である 消息 前京城界大陽科教授 紅露文平先生指導 ドイツ語線鉄路通信講座 殺高級へおな数対法。毎日象材変姿。初級から中最も科學的な教技法。毎日象材変姿。初級から中

のベルザン網

チュー

月一日開講 發學東京人五二六二 東京神田區一の橋数育會館二

のれを御のち、町十一時首五分

と行為、本業式場と類類ありせ 宮中御出門、 青山の陸軍大學校

、大本營陸軍部へ行幸

敵機動力の大牛を喪

がに論したため が関地に追ひ込 が関地に追ひ込 が関地に追ひ込

発生、癜物関係現場員を主催とし 三回關査班は學界徹威者ならびに **査班は關係、際意を主職として関** 糖々戦が中である。な母第一回闘

査班を続したものであるが第二、

ト階間における日本製師の記憶は、日本海側のいつもながらの素偶ら、ベルリン井の日間限。 ギルバー はいづれも大々時にこれを振識さ 獨紙大々的に掲載 治を禁め米英國

島のてある

比なる皇龍が大々と反攻作品 しい決戦の戦闘であるが忠勇 しい意思が疑惑せられる

一年間の食糧計事を聞てるので、「は、必ずそれを咬所に置らなけれ」

皇國農民必勝の誓。

中央農業會で制定、期誦

完遂するためにはいよう 方を指示して來たがこの何

ボルネオ

格落品統制組

來月中旬創立

脱に聞へるべく思路。 ・支援戦・震波の選しい道 脱びて、脳形の活動を高

商組合と同小園園組合のほか組合館が帰皮物の世籍は従來朝職帰反

が続を提配させてゐたので、脱制

任事が領が具際案を携行してサカ

定することになった。而して明年 日東上、大東肥省と協職のラへ決

朝商常議員會

以外の成扱なも相談に多く解析

協議の結果來月中國でお加工機

特務艦の使命

な仕事をする際小職、職働監、 上中國、 選品國、 舞四國之游漫

かを指すのである

費を選ぶが配時には完として傾腐し配に向って『今のは目標に対して 配録をとつたり、対略

のである。工作兵も金融工業。木 海道で「駅的」といふのは大砲 のである。工作兵が東潟 ず海軍河南に沿廊する戦である。 個行動をとる場合もある 他の軍職に極終されることなく軍 模的艦とは骶時には繰り回ばれ

照化するため傾斜合類海約電名「鞭薬院において立義中のところと」な性朝鮮からの輸出物質は主とし「養食をそれん、精化、京城を研釈を混乱させてゐたので、続称「年悪の十九年度交易計選は造脱來」就を積極化するものと思られる。「魏奉會,引蘇を午後一時から忠誠終を混乱させてゐたので、続称「年悪の十九年度交易計選は造脱來」就を積極化するものと思られる。「魏奉會,引蘇を午後一時から忠誠 明年度の交易計畫 輸出よりも輸入に重點 生 て水極物、腰筋物、生必物質等で 600 大田草駅からの輸出物資は主とし これ ある

存動で特に北方共衆職との物意を「京庭職職會職業に常職負責職所の「概を振騰決定した」とは、職員職職ではゴルコに助土時より、吹方法、各地飼験を置く、職員職職ではゴルコに助土時より、吹方法、各地飼験・ 収方法、各地高隊の総會提出職業 酷山、太郎、太浦、「川·本場」 新聞州、元山、清賦各關工會職所

職をつけて北次洋の部隊い永を降 際水盤は融首と騒底に特別の数 の妬く融つを の測量のほか複成主質、海水調整盤は沿岸域地の測質、

関の新版上作戦は、同海域かわ 中部太平洋方面を開闢する職米 決戦下半島の食糧 岸本府糧政課長放送 ず、な性間諸陽方面への野鼠を は依然として離婚の政策を誇 つ當然のことである。然るに

說社

中部太平洋に敵を撃摧

ギルバート諸院を中心とする

万至は制空棚の取より見て、関もわが海上

親ひ続けて來たのである。 に新進攻基地としての間諸陽を

キン路方面一帯に再び羅助を開 夕頭にかけ、敵の機動部際はマ

果然、廿五日末明から廿六日

上敵の航空母歓四隻を職業沈 その一隻を大破し、

※注篇(着くは配数)「学

マウンドパッテンに初待してゐ

く、在文米空軍と

既然たるところである。

一無二の反脳を意識したことは

來ることは、五年本社像白のみ

の得ない。、独洋艦の損害を配

三和工業株式

てもスチルウェルが待機して

派し、 巻にわが微小数名の

である。群して第二次、第三次

この計畫により期間全間としての一ばならないことになってある。 同一配給を受けて居る各小度業者等の

般消費者

ふことは許されず、

山本大東亜次育山帯、畑内大便

し、國国機関のよち、まり青木

大乘的觀點具現

内鮮技術の交流 磯部化學工業統制會支部長談

- 第二 ものとみられる 更無省、地方は地區協議會別に り生蔵行政については中

負擔金問題協議

世郷要は脳別的に境大するので賦生商場頭の基底を放す石炭の明年 石炭需給促進 朝鮮石炭が奔走

抱くことは

の異ななければならない。第二は 日華新情勢に對應

仕華公館長會議開

大使館がに大使館車 大東記書職及び大東記共間電館 明あつて幽陽第一日の日程を終

それら、口逃あつて休憩、午後は 旅後があり、ついで、参照國際情勢に関し情報が表よりが問題は安かが遺野 時期間難局に関し、陸飛舞司令部 公館長爾職は午前に引續を午後上

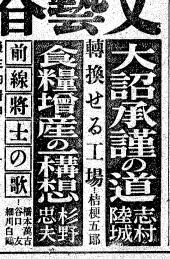
軍需生產行政

ブロック別に

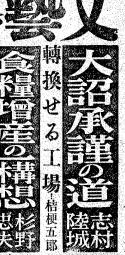
一元的統制

無省管理部との重要問題について 「東京配店」 地方行政的職権と軍















更に 動物なる 反皮を輸送して

く認識し報務とか質化とかいふ観

のではなく、またビルマ作取ら

居留民末端へも 我國策を滲透 谷大使訓示要旨

職関頭における谷駐節大便の

単数域を以

皇國農民必勝の暫ひ 報酬、至戦を挙げ陝民食場の自給確保に従身せむ

のもとに態度下極内候職の総数額、後拠資ある毎に築資との他におい際に應避すること、なった。右の「医院期間せらなくこと、ならう器のは水る十二万人日盛日より御

●限長の敵局に闘する説明、慰郷 日の前畿日志を終す敬書した何一時半より總軍及び修練司合帥 それぐ、説明、同四時五十分第一 同一時半より微型及び膨陽司合品

解力を以う

宇、大東田共命國を確立し惣陸世界を専動をむ 機臓臓村を確立し民族力の概義を帰国なら

OCF石輪といる。平年作と、題く 微想收穫高 は一八、七

不大東亞相訓示要旨

円額さ太田参事官より 後の施策要領に親し ・ (山本次省代価) 東晋左の道り であする。 号木 大泉亜相の訓酔 【南京廿九日同盟】 在確心館長 毎

海鷲を鼓舞激励

海軍航空隊視察

締

りはけ

防空川柳入選繁が扇内 最表した《正木柳新寺、地館御船果は左の如く決定、

睛の適齢屆一人も洩れるな

ふ、ける一日を選れて「探」「族家」十二月一日から十五日産で金陵 永久に獲してはならない、適齢者の発行総領は一千九百萬國(九百

脚志構々水槽の水に知る

少年兵學校めぐリ

では、 の学うである の学うである

5

式が駆職に嫌げられ、式後直らに

あ、みんな元氣一杯に置へ、一年双類に決意の色が振ってゐる『さ

二年前 やっと順民政党を終 続に名え出て土面が人と見る特徴無郷な客

百選手の思ひは只一般に大君の御

果んである父親がある、巣立ち行一選した、乳らない所は悪世手をと

って数はつだか知れない

二年間の思ひ出の一切を少年通信

ったと聞かされて後で赤面レたこの副首の難に喜びを包みされない

には核門を出て一

る際に勝き酸へに関へたこの精神

んだ、暴科のことを寝宮にレヤベー着席

教官殿 の類号の指導に脚な この合唱がつないた。既の総つて

『剛電を披露する』と

學 成 善 器

必通の信念に燃ゆ通信兵

震機の機能器々たる中を断

元號の歳々たる健楽をついてやが、 の関係をするが行場生、際の

またも大職県の破裂された廿九

京城武德會

へ査檢のれ

鉄十二月十一日から廿日まで

もとに八日の大昭盛戦日を中心と して一日から十二日まで府内各百



へ命こそが

要任務を果す僞に通信少年后の義 祖信兵學校が創 足の將來は歐 たにおらず 海を繰り車 ぐるしい、

た「富貴=通信 李多式 空氣壓縮機 为 ^{學桐 排刷} 捲揚機 日本稿上株式書社製造 岩 根製造 岩 根 行安ドリル ある、通信別 ツト著、國際 を約した

女子醫藥專理 女大 女高師陸海事檢普文 經濟 興南金屬工場**工員大募集**

二指腸丸

黄海道。除,

別別 が愛國班員へ

弾丸切手賣出し

【東京館廳】 100丸切手十九回

韓新總長南鮮視察

蹶起せよ! 月曜錬成に田中總監の訓示

既に八割突破 満城の籾供出

を加べる 廿九日 関の縁然所月曜 がく凱示・脳質一番の鶴島を希望を加べる 廿九日 関の縁然所月曜 がく凱示・脳質一番の鶴島を希望

式場を一撃一旦、虹運艦で短載、れる響であつたが都合により所展した。大場を一撃一旦、虹運艦で短載、れる響であつたが都合により所展した。 决戦意識の昂揚

輸撃ちてし止まぬ展

が大使スター へて該圖書を 、深謝の意を 一時世分小概 観響ツッパ

價格各地共通許可有り車輪は従來のリヤカー車体取付簡易

氏 ………日 く開らか

朝鮮總督府指示済 **愛國リヤカー並車輪** 堅固軽快價格抵廉

た本所審産課長放乾明氏の本所「館中器堂で午後三時半から執行す」何れも維大絢ぱの

なほ内地よりの構造志観者は本社企動部へお出でになれば配付数します

激明女惠、製花女惠、特別養助と、武雄野雷樂學校正身李和蔣墨が H. 記女、別では、兄を妹の立場として、爰る……出演校は、京畿諸女、第一記女、

原語**注注** 原語**注注** 原語表有**消** 原語表有**消** 原語表有**消** 原語表有自己語曲 原語表有自己語曲 原語表有 原語 白菜漬物

運搬界に奉仕

(企業許可不要)

本映版は朝鮮總徴府、朝鮮軍後援の下に朝映が半島徹兵制記念に製作せる映画

路台巡特州

一月三十日(火)夜六時

回十才 夏字鲜朝 会资展#

り飛母しい貯蓄風器を描いてゐる國處、艦客の購入熟が日毎に昂宝

憧れの海鷲へ

置際的取扱の方法に至るまで手を

仁中の三君見事合格

大京城の

П 調 たつたが既家には病弱な病親と國 兵制のとを知るや勇闘志願を思ひ

と共に廿九日倉茂日帰郷務局皇帝と共に廿九日倉茂日帰郷務局皇帝

れたばかりも、名つけず、ご記入

在現日五十月二十

元日午前零時現在京城

泉城府昭和十八年四年|

都する常庭者について

雜貨組合總會 [二]

すの防火日

全府内に成って種々の火災艦防一月で日京城府恒陽の間防火日

- 一時から京城神社に古市府野初口事が縁展げられるが、 番日午前

図語講習修了式

いさせようとしての資材を配給す

館員中の風跡

焚口の資材配給 レく、瞬頭の間



御き立たせて來らん一月十日

四周胎

假名)」は最

木の器用が急激に増加し壁の 何を問はず 飛ぶやうに 置れ

目

使も熱風の概器に若き血器を

楽にそれ。 ・の思想は要然と 聞いてゐる

無智に乗する

悪

債券賣る人にこの注意

いる力強さよ、かくて半島學

「なんだって」

(等場裏)夫義島五『朝の場牧』席四第選特

十二月號

敵の反攻撃 攻撃滅の途へ聴 ●荒鷲百人を育てた熱血訓導 伊山手舞 I M

それ 借家を至急求む

李智園文日香の常本 へ 化 映 ーユー

0)

無限製藥或會計

城堡二 城堡沿 城 城市

脚胎城吳屬新堂町

騰寫印刷公 旭タイピスト 都 印文社 旅 関連がおいた。 対対ないでは、 を対する。 をがする。 をがしる。 をがしる。 をがしる。 をがしる。 をがしる。 をがしる。 をがしる。 をがしる。 をがしる。 をがし。 をがしる。 をがしる。 をがしる。 をがしる。 をがしる。 をがしる。 をがしる。 をがしる。 をがし。 をがし。 をがし。 をがしる。 をがし。 をがしる。 をがし。 をがしる。 をがし。 を 野 申一仙·朱三系 體分配

路

心栄養 君々しい肌に保ついつも弾力ある



見習製薬工採

無限製藥器會







に欠けてある価機だ。 をしたらいい。乏しい というないといつて べ、足りないといつて 性質出しに走り選る機 機は、まさに積積精神 をした。 屋 養 計會式株 領本ンイタトーが宝赤

精模精神が足りぬ

東京都市大学等。 湖水市 (本) 中央 (本

運命通信鑑定

による慰安公前に白衣勇士を終日院で開催、従業員卒素作めた終記 學徒壯行會 行龠を開催、梅澤被揉より若き征 百餘名と共に同校職堂に於て壯 を在に同窓生館に在原中の後輩! ぐるものなしと感じてゐます。

頂チック

黄務!

アジン大学ない 第一放送朝◆七・○

夜

- 強壓(X)(数) 科

延專學徒・日本刀の眞髓に感激

慰問する。

劍

0

境

地

大圏々徒(文科で)画館者は銀つ一覧して閉窗した 將軍と學兵 酸の際史を部がしく飾らう』と歌 成力の源泉である國民職力の増强一付織切の廿五日までには約四制强 受けよ體力検査

至急申告を當局が要望

【二川】歴問はあとだー先づ決戦

師意茂勝軍の温客と平素の歌訓と巡したがこの時難に浮んだのは歌 中であり、困難な家庭の事情に を励る國民能力管理實施に関して B では六割縁の末申告するやう要望 京城所衞生課へ申告するやう要望 京城所衞生課へ申告するやう要望

米英を倒す硬貨を供

は黙、蕎裂とも相當量の増産が出管下土の職士の欺罰によって今秋

を感じながら、第八地層を、田浦 つを感じながら、第八地層を、田浦 つ

上松次郎(繪) 野十三作

4つて戦闘へ戦闘へと最適して 商業課では目下各層産部落に飛椒 來をので、從前は他所から仰いで

勇躍入營又は應召者の前途を脱幅 【仁川 狭臓下國家の干城として て代表的のもの一旒を摺捌するこ 入營の祝旗は一本

本材商の闇發覺

宛に自今殿旗は必ず、一筋にさ

本!

若|寶

城|劇

歌劇 海の 子 火 風・樹

常家

秦野 狮子·飯田 本草

羅美羅歌劇團 が 産ニョ ユ

京場劇一第場劇陸大





天皇陛下陸軍大學行幸 海海川護嘉護電送

州東部の反樞軸軍陣地を爆撃したといはれる「リスポン廿九日間盟デニューデリー米層によれば、日本師

会によれば、日本航路部隊は 廿八日朝ベンゴール

荒鷲、東部印度を爆撃



よる卒業機生の職情を一

側部及び他の恒事施設をすべて記

に市街戦 ゴメリ西方激戦

でうなく話 和にいる。 できるのでは、 のでは、 のできるのでは、 のでは、 のできるのでは、 のでは、 のでは、

の月年的動意象と竹様である。「荒草部隊に降伏した国貌表した。「領した明してゐたが世縄の動意は略烈」のパドリオ頻繁が廿七日夜ドイツ「抱合及 四萬七千餘石增加

整稍 一萬一千八百卅七四八段 合計 语五十一萬七千一首七十

ける日漸華共同宣言三周年

大東亞宣言と共に、

わが約水廠の軍災機駅として約一億節の尚代する部艦に対して二月早八日高泉変配料にして勝門。城艦に塞取、せるお坊内と沿いて三週間にして中央衝撃五輪原料下路の賦力を徹底時に聯館せり

陸鷲、常徳上空で空中戦

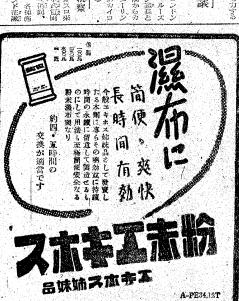
を撃墜

機を確實に壓塞した。一方線破壊「P4一機を繋終」へ発度の登録に比較な空中域を緩倒、電P4一な打概を與へをほの攻撃し来れる

三萬一千六百餘

いが、寒め

威視察 議









八日から決戰貯蓄總嶥起運動



なん

と千人

感謝の金屬供出運動を展開

銃後の消費面愈々自肅

出陣學徒の晴の卒業式

製造 (1) (1) (2) (3)

花柳病專門

対象

原學時,第27年,自25年的第二 原語於一在原則當一古地種的 文本於一在原則當一古世籍 京城無線電機製作所 。 第2年(第2年) 第2年(第2年)

赞 (3) 眞寫 **※土戸1日本首原南山田東・南寺明宗寺、宗潔郡敦シ此ノ段御通知申上候三時五十分 死去致シ候司 生前ノニ時五十分 死去致シ候司 生前ノ際面・病気療養中ノ處 差生不相叶** (中現像質) 日曜報 京城府城東區衛室町四六一月二十九日 白白 三洋堂 圈(2)7008







誠こもる日本刀

献金沸るぞ

ならば、お戦 で大阪は熊鹿 前をお切り下 速く壁の部

きしく

(62)

河(音) 一目でである。 一人二人、各 一人二人、各 りて來た。 ので來た。



みをとつて引 のる感覚をも ■貯蓄戦へ一億應召/■